

大切に育ててくれたりんご

茨城県東海村立中丸小学校 五年 花田 桃香

私のおじさんは、青森でりんご農家をしています。いつも秋になると、いろいろな種類のりんごなどを送ってくれます。きずのついた売り物にならないりんごも送ってくれます。ですが、中身はおいしいです。わたしは、りんごを皮ごと食べます。皮もシャキシャキしていてもおいしいです。少し悪くなったりんごは、お母さんがさとうで煮て、煮りんごにしてくれます。生のりんごとは食感は変わりますが、やさしい味で大好きです。

そんなりんごを作るおじさんは、とてもすごいと思いました。おじさんにりんご農家の大変なことを聞きました。天候に関係なく、雨風が強くても作業しないとけない。りんごは生きているから、タイミングがずれると大きくなりすぎてしまったり、悪くなったりするそうです。品種によって花の咲く時期や収穫時期もちがうから、作業のタイミングも変わってくるそうです。りんごは苗木から育てるので、計画的に植えても、十分な数のりんごができるまで何年もかかると聞いて、生きているりんごの木を育てる大変さを知りました。

いつも夏に青森に遊びに行くと、道の横にたくさんりんごの木がきれいになります。まだ小さく青いりんごが、秋には赤くなって家にとどくのが楽しみになります。一つ一つ手作業で大切に育ててくれたりんごをわたしも大切に食べたいと思います。